EPA介護福祉士候補生を受入れて

社会福祉法人　清峰会　統括施設長　内山重浩

社会福祉法人　清峰会のご紹介

昭和59年 9 月	法人認可（福島県西白河郡西郷村大字小田倉字大清水389－5）
昭和60年 4 月	知的障害者施設さざなみ学園（定員80人）
平成 4 年 4 月	障害者グループホーム茗荷寮（定員　4人）
平成11年11月	**特別養護老人ホーム小峰苑（定員100人：福島県白河市）**
〃	デイサービスセンター小峰苑（定員　40人）
〃	在宅介護支援センター小峰苑
〃	ケアハウスなつなし（定員　30人）
平成12年 4 月	居宅介護事業所小峰苑
平成22年 6 月	**特別養護老人ホーム浅草ほうらい（定員160人：東京都台東区）**
〃	知的障害者施設浅草ほうらい（定員40人）
〃	デイサービスセンター浅草ほうらい（定員40人）
〃	ほうらい地域包括支援センター
〃	ほうらい子育てサポートセンター（定員10人）
平成23年 3 月	障害者グループホーム柳北ほうらい（定員4人）
平成25年 6 月	障害者グループホーム今戸ほうらい（定員6人）
平成26年 8 月	就労継続支援B型オアシス（定員20人）

清峰会の理念と方針

☆運営理念

「共生と共育」

幸せに生きるため、
誰もが助け合い、
共に成長をする。

☆運営方針

人間性（人格と人権）の尊重と地域の中で
その人らしく健康に生きる

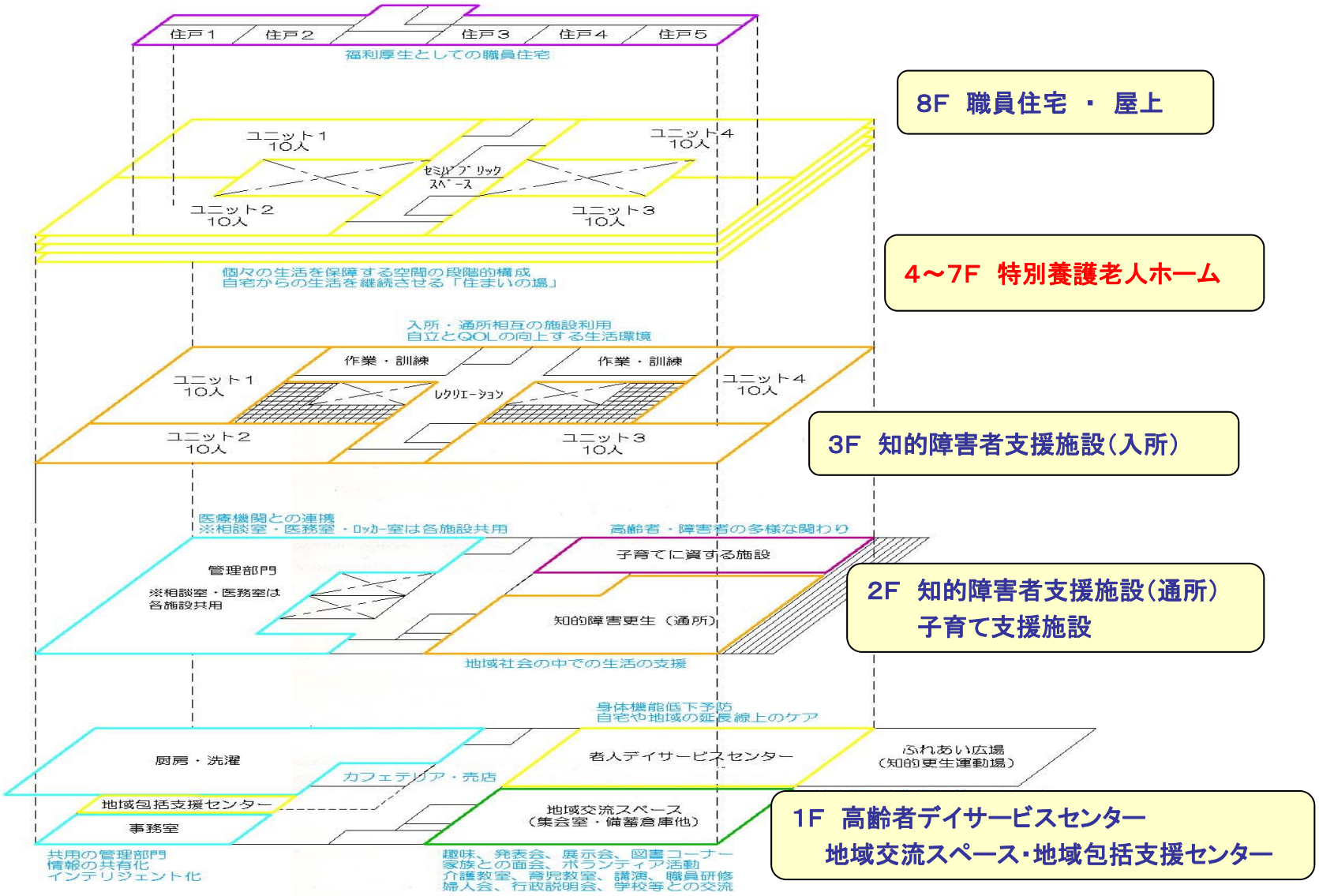
サービス提供の基本方針

～利用したい福祉サービスの実現を目指して～

1. ご利用いただいている大切なお客様が、利用して良かったと満足されるサービスの提供

2. 自分自身や家族、友人が利用したいと思うサービスの提供

福祉プラザ台東清峰会 （特別養護老人ホーム浅草ほうらい）



8F 職員住宅 ・ 屋上

4～7F 特別養護老人ホーム

3F 知的障害者支援施設（入所）

2F 知的障害者支援施設（通所）
子育て支援施設

1F 高齢者デイサービスセンター
地域交流スペース・地域包括支援センター

受入れ数

受入数　11名（再入国者介護福祉士1名含）
合格者　　3名
帰国者　　2名（介護福祉士　合格者1名含）

国（施設）	フィリピン（小峰苑）				フィリピン（浅草ほうらい）			
入国年度	介護福祉士	合格	帰国	備考	介護福祉士	合格	帰国	備考
2009年	2	1	2	1名結婚退職 1名不合格				
2010年	2	2	1	1名再入国				
2011年								
2012年								
2013年								
2014年	2				4			
2015年					（4）			
2016年								（ベトナム4名）
合計	6	3	3	1名再入国	4			

EPA候補生の受入れ理由

①マンパワー不足の懸念

②将来を見据えた人材育成とノウハウ取得

③職場の活性化

④国際貢献と交流

受入れにあたっての準備

①職員・利用者・家族等への周知

②住居の確保と日常生活用品の準備

③研修担当者・生活支援者等の役割分担

④宗教・生活習慣への配慮

学習支援体制

日本語学習	• 施設長、生活相談員 • 日本語学校派遣講師
国家試験対策学習	• 施設長、生活相談員、ケアマネ • 日本語学校派遣講師
介護技術	• 介護係長、介護職員 • 施設外講師

一年目の取り組み

日本語学習

- 日本語学校派遣講師によるグループレッスン
- 研修期間に使用した日本語教材の反復学習
- 学習時間の確保と環境整備
  （パソコン、電子辞書等）

試験対策学習

- 基本的な福祉（介護）用語の学習

介護技術

- OJTによる基本的介護技術の指導
- 利用者とのコミュニケーション（接遇）の指導

一年目の取り組み

学習風景

二年目の取り組み

日本語学習

- グループレッスンによる日本語の基礎学習
- 国際厚生事業団からの添削問題を実施
- 大学等が主催する研修会への参加（予定）

試験対策学習

- 福祉（介護）専門用語の基礎学習
- 国際厚生事業団が開催する研修会への参加
- 大学が主催する研修会への参加（予定）

介護技術

- OJTによる介護技術の指導
- 施設内研修会への参加

三年目の取り組み

日本語学習

- 日本語学校派遣講師による個別レッスン
- 国際厚生事業団からの添削問題を実施
- 専門用語・漢字の習得

試験対策学習

- 国家試験の事例問題集
- 国際厚生事業団からの模擬問題や集合研修への参加
- 専門知識（介護分野）の学習

介護技術

- 介護技術及び形態別介護技術の指導

四年目の取り組み

日本語学習

- 日本語学校派遣講師による個別レッスン
- 担当者からの専門用語学習

試験対策学習

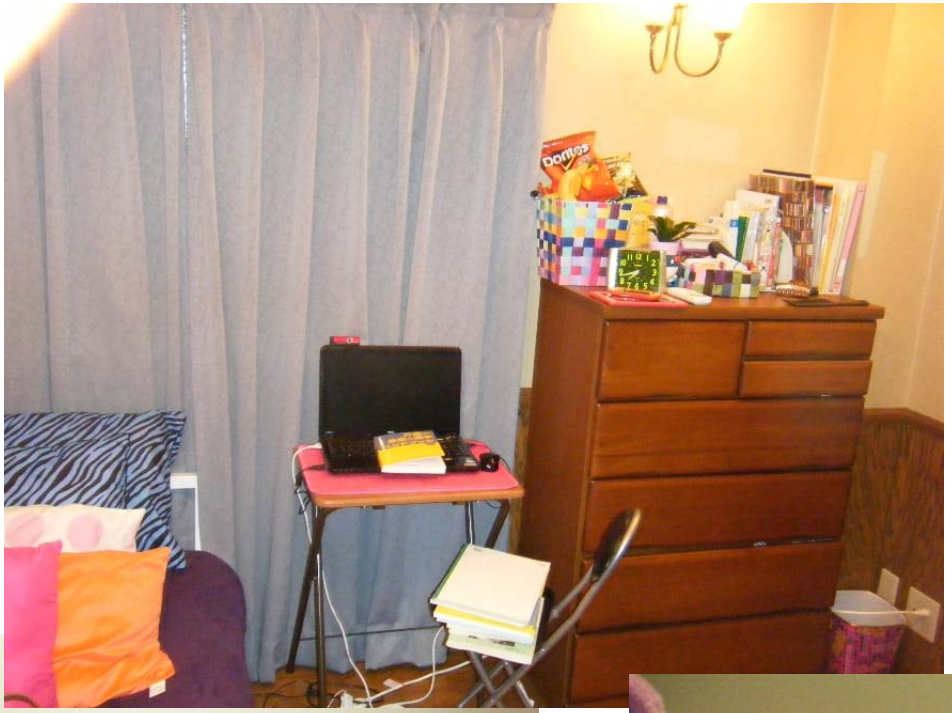
- 国家試験の過去問・予想問題集の徹底指導
- 国際厚生事業団からの模擬問題や集合研修への参加

介護技術

- 研修参加（介護福祉士専門学校）による介護技術試験の免除
- 介護現場での専門的（技術免除に係る）介護技術の指導

生活支援体制（生活・就労・メンタル）

生活支援	・統括施設長、施設長、 ユニット職員
就労支援	・副施設長、事務員
メンタル支援	・統括施設長、産業医 衛生管理責任者、看護師


Doritos

EPAを受入れてよかったこと

①職員・利用者へのよい刺激となった

②職員の協調性が向上した

③人材育成（研修体制）の見直し

④マンパワー不足解消の一助となる

⑤異なる文化や習慣の発見と国際貢献（ほんの少し・・）

受入にあたっての今後の課題

①日本語学習のあり方

②資格取得後の定着に向けた取り組み

③日常生活の管理

④モチベーション維持への取り組み

国際厚生事業団や国の支援

①国際厚生事業団

・通信添削指導、集団研修、再チャレンジ支援等

・相談窓口、巡回訪問、学習教材等の配布　・・　etc

②国（東京都）

・受入施設研修費補助金（平成27年度）

国235，000円＋80，000円（研修担当者手当）

都765，000円

合計1人当たり1,000,000円

「見捨てられない」比の4人とどまる

介護福祉士目指す

白河

福島第1原発事故で在日外国人の「日本脱出」が続く中、白河市の「小峰苑」では、4人のフィリピン人介護士候補が「お年寄りを見捨てて去れない」と働き続けている。

4人はルソン島中部ヌエバビスカヤ州出身の看護師メルセデス・アキノさん(27)、同島バギオ市出身の元NGOスタッフ、ジュリエット・トバイさん(27)ら。日本との経済連携協定(EPA)に基づいて2009~10年、相次いで来日した。

アキノさんによると、フィリピンの家族からは毎日のように「帰って来て」と電話がかかってくるというが、4人は「お年寄りがここにいる限り残る」と決めている。

「おばあちゃんたちからチョコレートをもらったり、日本語の勉強用のノートをもらったりと、すごく親切にしてもらっている。地震も原発も怖いけど、私たちだけ帰国はできない」とアキノさんは話す。

4人の活躍は、フィリピンのテレビニュースでも「介護のヒロイン」と取り上げられ、大きな反響を呼んだ。ただ、本人たちは「自分に与えられた仕事を果たそうとしているだけ」と話し、ヒロイン扱いに困惑しているという。

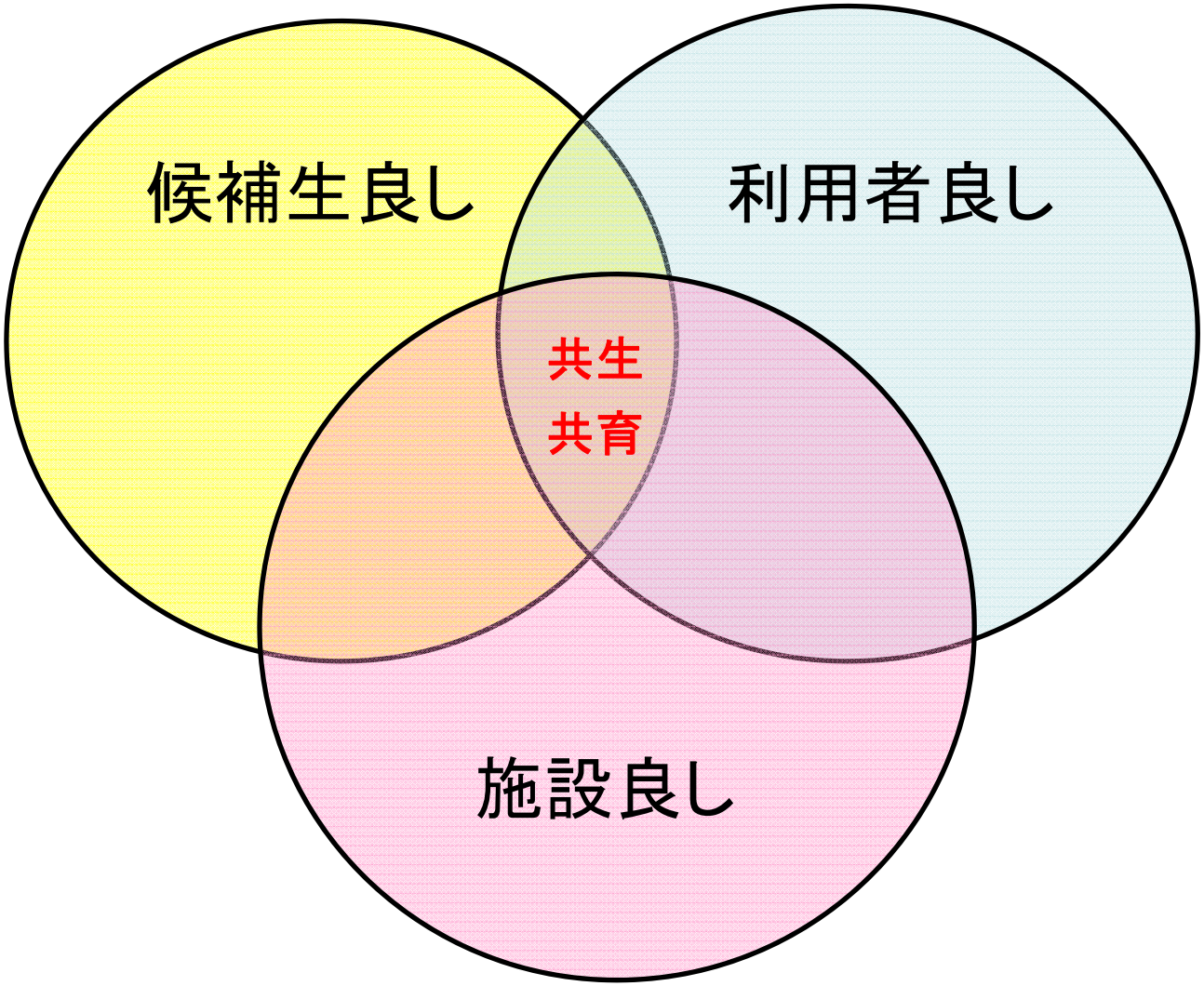
彼女たちの目下の悩みは日本語の勉強。日本で働き続けるには介護福祉士国家試験に合格しなければならないが「漢字が難しいし、今は勉強する余裕もない」と言う。

小峰苑では「本人たちが帰国を希望すれば、すぐに手続きを進めるのだが、大変まじめに研修し、献身的に仕事を続けてくれている。入所者に家族のように接する姿は、われわれ日本人職員にも刺激になっている」と話している。

社会福祉法人 清峰会

特別養護老人ホーム
デイサービスセンター
居宅介護支援事業所
(在宅介護支援センター)

小峰苑

ケアハウス
なつなし

法人が目指すこと